



〈自分（たち）でつくるみんなの学校 ～日本一美しい学校を目指して～〉

# 成美っ子

学校だより 令和5年度No.7

## 漫画「スラムダンク」から学ぶこと

さくら学級担任 山田 晃生

皆さんは、漫画『スラムダンク』を読んだことはありますか？最近、映画化されたので、漫画は見なくても、映画を見たという人はいるのではないのでしょうか。漫画に出てくる、「諦めたらそこで試合終了ですよ」という安西先生の名言は、知っている人も多いと思います。私も大きな壁にぶち当たって、逃げ出しそうになった時に、この言葉を自分に言い聞かせて、なんとか乗り越えてきました。

私が、初めて5年の学級担任になった時の話です。連合音楽会では、5年の学級担任が指揮をします。しかし、自分には音楽的な知識がなく、音階も分からない状態で練習は始まりました。子供たちからの質問の嵐。音を合わせるための指揮の勉強。大変な壁がたくさん出てきました。そのたびに、あの言葉を思い出し乗り越えました。そして、本番は、拍手喝采の大成功に終わりました。

この漫画は、単なるスポーツ漫画ではなく、生き方を考えるための哲学書としての趣も備えています。スポーツドクターの辻秀一さんが、『スラムダンク勝利学』という著作の中で、この漫画に込められた、人生に対するメッセージについて語っています。

その中でも、特に印象に残った、「ミラーの法則」について紹介します。「ミラーの法則」とは、「自分の周囲の人々や出来事は、まるで鏡のように自分の心の中を映し出す」ということで、心理学の用語では「投影」と言います。要するに、「自分の人生に起こる出来事の原因は、全て自分自身の中にある」という考え方です。『スラムダンク勝利学』では、繰り返し、この法則の重要性について述べられています。

自分がよいプレーをした時にほめてほしければ、まずは、よいプレーをした人をほめることが大切です。これは、スポーツだけでなく、日常生活においても当てはまることだと言えます。日頃から他人を励ますような言動をしていると、自分が辛い時にも励ましてもらうことができます。逆に、他人の悪口や愚痴を言うと、それが自分に跳ね返って来て、自らのイメージダウンにつながってしまいます。子供も大人も関係なく、人は皆、「誰かに認められたい」「褒めてもらいたい」と思っています。そんな時に、ふと自分の行動や言葉について客観的に見てほしいのです。「自分は友達のことを認めて、いい所を褒めているかな」

「友達に悪口を言っていないかな」「悩んでいる友達に優しく関わっているかな」

よりよい人間関係を築くためには、適切なコミュニケーションや自己肯定感はとても大事になってきます。まずは自分の行動について、一歩引いて考えてみてはどうでしょうか。きっと新しい気付きが生まれることと思います。

